

1 研究テーマ(継続)

主体的に表現し、伝え合う児童の育成

～表現力を高め、「主体的・対話的で深い学び」につなげる指導法の工夫～

2 主題設定の理由

本校では、2018年度から、学力向上プランと学校課題を融合させ、テーマに迫る指導法の工夫を研究してきたことにより、成果を収めるとともに、課題も明確になってきた。

児童は、学習の分かりやすさを求める傾向にある。これまで、本時や単元全体でのめあてやゴールを共有することにより学習意欲を高めさせ、視覚的な提示や、友達や教師の手本をとおして、課題解決の見通しをもたせてきた。このことは、学習課題を児童にとって捉えやすく解決しやすいものに咀嚼し、学習の内容や活動が、児童にとって分かりやすいものになり、前向きに取り組む意識をもたせることにつながってきたと考えられる。

このような成果を生かし、児童の学習意欲を高めさせた上で、学習課題や問題を、“言葉”を手掛かりに理解することができるような研究実践をすることで、課題解決に迫りたいと考える。

“言葉”の捉え方…学習課題や問題を、適切につかむための情報である、語句や文章。そして、それに付随する、挿絵や図、式やグラフなどの解釈。

言葉を手掛かりに、学習のための情報をつかむ資質・能力を高めさせるにあたって、今年度も、国語科を中心に研究を進めることとした。

課題に対して、一人一人の児童が考えをもつには、何に対する考えなのかが捉えにくい状況では、課題に迫ることができない。そこで、昨年度までの研究の成果に立ち、対話的な学習をとおして、

○本時や単元全体でのめあてやゴールを共有 ➡ 集団で学習に向かう意識をもたせる。

○視覚的な提示や、友達や教師の手本 ➡ 課題解決の見通しをもたせる。

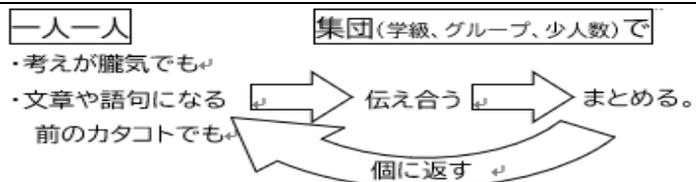
その過程の中で、“言葉”を手掛かりに理解できるような指導や支援の工夫をしていきたい。

3 目指す児童像

主体的に表現し、伝え合う児童

◎今年度重点項目

- ◎ 目指す姿1 自分の考えをもつことができる子(主体的な学び)
 - ・書くのが苦手でも話せる。・話すのが苦手でも書ける。 など
- ◇ 目指す姿2 課題に対して見通しを持ち、粘り強く取り組める子(主体的な学び)
- ◇ 目指す姿3 他者の考えを基に、自分の考えを広げ深めることができる子(対話的な学び)
- ◇ 目指す姿4 見方や考え方を深めながら、自分の考えを作り上げている子(深い学び)



4 研究の方針・仮説

昨年度までの研究で得られた成果を生かしながら、学習課題や問題を、“言葉”を手掛かりに理解することができるような研究を推進していく。そうすることで、表現力を高め、「主体的・対話的で深い学び」ができる子どもを育てる。

児童が、主体的に表現できるときの思考の流れを、右図のように仮定する。1～3の各段階を成立させる要因を考えてみると、

1 課題・問題を理解できる。
↓
2 自分なりの考えをもてる。
↓
3 自分の考えに自信をもつ。
↓
伝えたい！

1 課題・問題を理解できる。

ア 課題や問題が自分事になり、楽しそう・やってみたい・考えてみたいと思える工夫をする。

・めあてを児童と共有する。

・児童の身の回り(既習の内容を含む)にあり、必要感があるように。

イ 学習課題や問題を理解して、解決できそうだと見通しをもたせる工夫をする。

2 自分なりの考えをもてる。

ア 自分なりの考えを、表している・表そうとしている姿を認める。

・書くのが苦手でも話す・話そうとしている。 ・話すのが苦手でも書ける・書こうとしている。 など

3 自分の考えに自信をもつ。→伝えたい！

他者との交流(ICTの活用を含む)をとおして、

ア 互いの考えをつなぎ、みんなで、考えをまとめる。

イ 自分の考えと比べて、自信をもったり、直したりすることができる。

本年度の研究において、前述の3段階のうち、1のイを中心に実践する。教員同士、互いの授業を見せ合うことを積み重ね、学習指導における成果と課題を共有し、授業改善につなげる。

5 研究方法

①学力向上プランとの融合を図り、「主体的・対話的で深い学び」の土台となる国語の基礎学力を伸ばす方策を研究する。

ア 物語的文章の読みの目的に応じたキーワードを見つけ、児童個々の捉え方を交流することにより、読みを深める。

(例)6年「海の命」の単元の学習で、太一の考える「本当の一人前の漁師」と、与吉じいさの考える「村一番の漁師」とは、どう違うのか考えさせることで、自分の読みの根拠を文章表現に求めるといった読みの技能を高めることができる。と考える。

イ 説明的文章の読みにおいて、要旨につながる表現を見つけ、自分の表現に取り入れる。

(例)3年「すがたをかえる大豆」の単元の学習で、具体的な例を挙げるときの文末表現として、「～するくふうがあります。」と書いていることで、読み手に伝わりやすくしていることを気付かせることにより、良い表現方法を取り入れようとする意識を高めることができる。と考える。

ウ 言語事項の学習において、言葉のもつ働きを意識させるような活動を行う。

(例)1年「ことばあそびをつくろう」の単元の学習の発展として、

・「せんすいかん」の中に、がある。」の、に当てはまる言葉を入れよう。

…「せんす」「せん」「すいか」「いか」「かん」を、児童は見つけると予想される。

→文末の「ある」に着目すると、「いか」は除外される。つまり、他の語句との関わりで、言葉を選ぼうとする意識をもたせることにつながる。

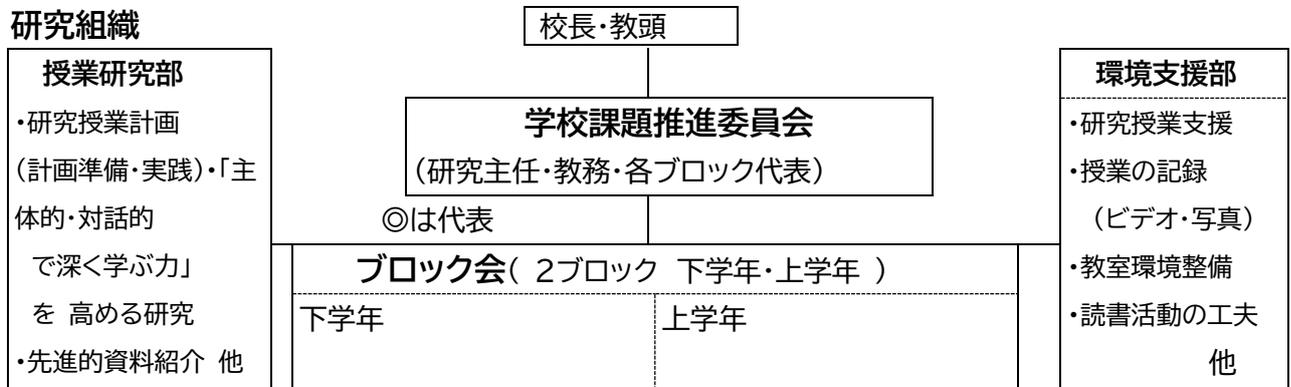
②根拠を基に自分の考えを表す活動が行えるよう、思考の場を盛り込んだ単元計画を立案する。

③「対話的な学習」を充実させ、学びが深まる授業の方策を研究する。

④家庭と連携を図りながら、自主学習を中心とした家庭学習の充実に向けた取り組みを推進していく。

⑤授業研究の推進を図るため、下学年・上学年の2ブロックに分かれ、ブロックごとに授業研究を行い、全体に授業提案する。提案された授業について検証し、成果と課題を共有する。

7 研究組織



8 研究の予定

月	日	曜	項目	主な内容
4				・学校課題研究計画のテーマ・内容等の確認 ・学力向上改善レポートの確認・継続 ・全国学力、とちぎっ子検査
5				
6				
7				全国学力、とちぎっ子結果分析
8				
9				
10				
11				
12				・学校課題のまとめ
1				・次年度研究方針の立案
2				・学力向上改善プランのまとめ ・CRT 結果分析
3				

